MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２３．５．９　発行元
第 475 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ロバート・B・パーカーの代表作

いつものパターンで、ハメット、チャンドラー、ロス・マクドナルドと来れば最後はロバート・Ｂ・パーカーとなる。ハードボイルドとしての私立探偵スペンサー物語の代表作三作について考えてみようと思う。

正統派ハードボイルドの流れ

３月。ＷＢＣで日本が優勝した。そのメンバーの一人、オリックスにいた吉田正尚が今年からボストン・レッドソックスに移籍した。ボストンと言えば探偵の名前はスペンサー。ロバート・Ｂ・パーカーが作り出したプライベート・アイだ。

スペンサーは名無しのオブとも違うし、マーロウとも違う。料理が大好きで、活動的な印象が強い。特に後半の作品になると行動力が前面に出てくるようになる。正統派ハードボイルドは隠された秘密を探し当てる流れなのに、スペンサーは事件そのものを自分も腕の力技で決着させる傾向にある。時代の移り変わりというか何というか…。

代表作を考えた時、デビュー作の『ゴッドウルフの行方』も候補には上げた。でも初期作品の面白さで言えば『失投』かなと思ってそれを選んだ。『ユダの山羊』も候補に上げたが、その後の流れを考えると『初秋』の方がパーカーらしいかなと思ってそれを選んだ。

Ｎｏ１は『約束の地』で決まり。いずれにせよ代表作はすべて初期作品に集中している。後半の作品はパターン化されたものになり、面白さは次第に薄くなる。

NO.3『初　秋』

１９８１年の作。スペンサーものとしては第七作となる。この後続くシリーズの流れを決めた一作と言える。

ある女が事務所を訪ねてきて、離婚した夫が連れていった息子のポールを取り戻してほしいと依頼する。スペンサーはポールを見つけて女の元に送り返すのだが、その後両親の間でポールは物のように扱われていることがわかってくる。ポールは親同士の間での単なる交渉材料にしか過ぎなかったのだ。スペンサーは、両親に見放されたポールを引き取って育てる決心をする。一緒に生活する中で、衣食住、運動、自然観察などとさまざまな体験を積ませようと工夫する。ポールとスペンサーの仮の親子の成長の物語である。

NO.1『約束の地』

１９７６年の作。アメリカ探偵作家クラブ賞最優秀長編賞受賞作品。私の手元にあるのは１９７８年の早川書房版。長編第四作。本書に限らないけれどもパーカーの初期作品は会話文にかなりの工夫が凝らされている。ハードボイルドの研究者から作家になったパーカーは、チャンドラーよりも更に軽妙な会話のやり取りを取り入れている。その辺を楽しんでもらえたらいいと思う。

スペンサーとスーザン・シルヴァマンがいる事務所にハーヴィ・シェパードと名乗る男が訪ねてくる。家出した妻を探し出してほしいとの依頼だ。突然、荷物をスーツケースに詰めていなくなったという。警察は何もしてくれないのは当然。スペンサーがシェパードの家を訪ねるとそこには顔見知りの元ボクサーのホークがいた。借金の取り立てを仕事にしているようだ。つまり、シェパードは金銭面で窮地に陥っているということ。妻のパムはウーマンリブの活動家の家に逃げ込んでいた。スペンサーが説得するが、家には戻らないと言う。強制はできないのでその旨シェパードには報告した。その後、スペンサーの元にシェパード、パムの両方からＳＯＳの連絡が入った。二人ともに面倒ごとに巻き込まれたらしい。さて、そこから…。

No.2『「失投』

１９７５年の作。私の手元にあるのは１９７７年の立風書房版。デビュー作の『ゴッドウルフの行方』はハヤカワ・ポケミス。そして立風書房の発行の時期があり、『約束の地』以降はほとんどが早川書房からの出版になる。本書『失投』は野球を題材としているところが特徴である。長編第三作。

冒頭、スペンサーはボストンのフェンウェイ・パークでレッドソックスの試合を見ている。試合終了後、球団の事務長ハロルド・アースキンと話し合いが持たれる。調査の依頼があったから。彼の話では球団のエース、マーティ・ラブが八百長試合に絡んでいるという噂が出ているという。スペンサーは作家になりすまして関係者に話を聞いて回る。チームのＰＲ係を通じて何人か選手を紹介してもらって話を聞き、続いてチームの専属アナウンサー、ラブの妻などと調査の範囲を広げていく。やがて、マーティ・ラブが何者にか脅迫されているらしいことが見えてくる。ラブ夫妻の過去に遡った事柄が材料になっているらしい。スペンサーの友人である警察のカーク警部補にも相談を持ちかけてみたのだが、最終的にスペンサーは自分の手で根本から解決をつけてラブ夫妻を助けやろうと考える。スペンサーは脅迫者と直接対決することに…。